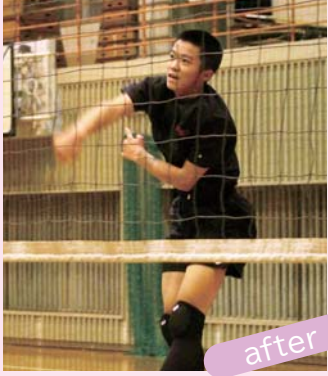




別の顔

放課後は



after

で部活動を引退しましたが、今年
の「JOCジュニアオリンピック
都道府県対抗中学バレーボール大
会」鹿児島県代表の12人に選ばれ、
現在は週に2回の練習と土日には
県内の高校生や大学生チームと練
習試合を行っています。練習試合

上小原中学校
まつなが りょう
松永 涼 さん(3年生)



好きな科目は数学で、将来の進学
を見据えて高校受験に取り組む。受
験勉強とトレーニングの合間に1歳
の弟の面倒を見る。現在の身長は
182cm。



は高校・一般用のボールを使い、
ネットも高いので勝手が違います
が、持ち前のバネと身長を生かし
てアタックしています。休みが少
なく、周りの選手たちのレベルも
高いため練習は大変ですが、楽し
んで参加しています。チームの目
標は日本一。指導されたことを着
実に身に付けながら、受験勉強も
忘れずに取り組んでいきます。

上 小原中学校男子バレーボー
ル部は3年生が1人しかお
らず、キャプテンとしてメンバ
ーをけん引しているが不安では
ありません。私は夏の最後の大会
でできました。私は夏の最後の大会



school

昔、度尾で起きた出来事にクローズアップ!



タイム トラベル ~温故写新~

8話

土持堀の深井戸



火山灰や軽石で構成されるシ
ラスで覆われた笠野原台地は、
保水性に乏しく雨が降ってもす
ぐに地下へ吸い込まれてしま
います。水は飲料としてだけで
なく、風呂や洗濯などの日常生
活や農業にもなくてはならない
存在であり、そこに住む人々
にとっては水の確保が最重要課
題。そこで、住民たちは雨水な
どを溜めて生活や農耕に使用
していました。



▲串良町細山田の「鎌田堀の深井戸」で
の牛による水のかみ上げの様子。

当時の笠野原台地にはこう
いった深井戸が点在しており、
昭和2年の笠野原簡易水道の開
設、昭和42年の高隈ダムによる
灌がいが行われるまで人々の生
活を支えていました。

の深井戸」は、こういった笠野
原台地開発の苦難の歴史を物語
る史跡として昭和57年に鹿児
島県の指定文化財となりました。
これは文政年間から天保年
間(1818~1841年)頃
に掘られた直径1m、深さ64m
にも及ぶ素掘りの井戸で、人
の手によってビル20階以上の深さ
を掘っているところからも、水
を渴望していた姿が見て取れま
す。水を引き上げるにも人力で
引き上げることができないた
め、牛や馬を使って綱を引かせ
ました。